

佐賀新聞 2014(平成26)年10月21日(火)

岡田名画の 周辺

岡田邸の門を入るとバラのアーチがあり、そこをくぐり、応接室の窓を過ぎ、アトリエの傍らを通って研究所の玄関に至る。当時でも珍しい女子だけを対象とした画塾だった。

岡田による作品の批評は、黙って見るの方が良い評価で、たまに感想らしきを述べても一言。そのときの最上の褒め言葉が「悪くありません」だった。

有馬さよえは最も長く岡田の教えを受けた一人だが、彼女にとってその指導方法は、もの柔



岡田三郎助(中央)と女子洋画研究所の研究生(昭和7年)

層アッサンに励む姿が伝えられている。岡田は三岸節子、森田元子など多くの女性画家を育てたが、帰国後、女子のための画塾を

開いた。他の先駆けて開いたことは、この時の見聞がもとにあり、コラ

女性画家育成の先駆者

らかな中にも「強靱な懇切さ」でもって、とくに叱責されなくても、魂をにらめつけられるように、ボロボロと涙の出ることもあったという。

その萌芽は明治30年代初めのフランス留学にあった。その時師事したアカデミズムの画家ラファエル・コランのアトリエには、パリはもとよりアメリカからも女性画家たちがレッスンにやってくる。そうした状況を目の当たりにした岡田は、故

また、童画家いわさきちひろは東京府立第六高等女学校の時、この研究所に通った。岡田

の同朋宛てに、今の日本には「好き画かく婦人」に欠いてい

も、ちひろは自分に敵しく、一

岡田三郎助 —エレガンス・オブ・ニッポン 11月16日まで県立美術館で